

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	有田町立有田小学校	B : おおむね満足している C : やや不十分である D : 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと「有田大好き 進んで学ぶ・さわやか有田っ子」を合い言葉に、職員が一丸となって学校目標の実現に向け取り組んできた。若い教員が増えてきたので、校内研究を通して授業のスキルアップを目指していく。 ・校内研究において、児童用端末機器の文化への足がかりとなる研修を行うことができた。今年度は、更なるスキルアップに取り組む。 ・PTAや地域との連携は、学校評価保護者アンケートにおいても肯定的な評価をしていただいた。来年度からも更なる発展を図っていく。 ・個別最適な学びと協働的な学びが相乗効果を招くよう、校内研究をベースにした研修会で研鑽を深める。 ・「子どもが見る会」を毎週水曜日に実施し、全職員で「気になる子」への支援を共通理解することができた。児童理解や児童支援となり、職員のスキルアップにつながっている。学校や児童に関わる危機の未然防止・早期発見のための貴重な会議となっているので続けていきたい。 	

2 学校教育目標 ふるさとを愛し、自ら学び、たくましく生きる児童の育成

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none">① 校内研究における「自分の考えを広げ深める児童の育成」をベースに、個別最適化の指導スキルの向上を目指す。② 特別支援教育を充実させ、気になる子への支援を全職員で共有し、共通実践を組織的・継続的に行う。③ 地域と連携した教育を推進し、児童が郷土を愛し誇りに思う心情を育て、活躍したり披露したりする場を設ける。
-------------------	--

重点取組			具体的な取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の推進	○全職員による共通理解と共通実践による組織的対応	○「支援を要する児童への対応の仕方の理解が深まった」と考える教職員90%以上。	○特別支援教育に関わる研修を年5回以上行い、専門的知識を深める。 ○毎週「子どもを知る会」を実施し、支援についての共通理解を図る。	A	・毎週水曜日「子どもを知る会」を実施し、児童支援の共通理解ができた。 ・スクールカウンセラーを講師に、発達障害の児童理解と対応の仕方を深める職員研修を実施した。	A	・「支援を要する児童への対応の仕方の理解が深まった」と考える教職員は90%だった。 支援が必要な児童に対して、合理的な配慮ができる。	A	・年々特別支援教育へのニーズが高まり、更に職員相互の共通理解や研修が重要になってきます。	
○地域と連携した教育活動の推進	○地域の人材や教育資源を活用した体験活動の充実	○「学校は保護者・地域と連携しながら教育を行っている」と考える保護者90%以上。	○世界に誇れる有田焼をはじめ、地域の歴史・文化等、地域の人的・物的教育資源を活用した学習を年間を通して計画的に行う。	A	・やきもの教室やクラブ活動の指導、大掃除の手伝い等、地域の人材を活かした活動ができる。	A	・「学校は保護者・地域と連携しながら教育を行っている」と答えた保護者は66.6%だった。やきもの、音楽、掃除、読み聞かせ、福祉など地域人材の力を活かした教育を更に推進していきたい。	A	・学校運営協議会がとても機能していると思います。できれば、委員さんの中に20代～30代位の若い方がさらに入られるとなしい取組が生まれるのではないかと思います。	
○落ち着いた生活態度の育成	○全児童が落ち込んでいる生活できる静かな環境づくり ○ノーメディアデーの周知、充実のため家庭と連携を図る。	○「あいさつ、静かな廊下歩行、無言掃除などができる」という児童が80%以上。 ○ノーメディアデーの実施率を90以上。	○「有田っ子プライド」(月目標)を全職員で共通理解を図り、指導を徹底する。 ○ノーメディアデーの呼びかけを通信、花まる連絡帳等で行う。	B	・地域でのあいさつには、これからも継続して指導していく必要がある。 ・全校朝会や、集団下校時に継続して安全指導を続けている。有田っ子プライドに全クラスで取り組んでいる。	A	・「無言掃除ができる」と答えた児童は低学年95.6%、高学年92.3%だった。高学年の意識が高まってきた。 ・「気持ちの良いあいさつができる」と答えた児童は低学年93.5%、高学年91.4%で、高学年を中心にあいさつを意識して行う児童が増えている。	A	・できればその子の得意な事を気付いてあげ、その事をきっかけとして成長そてくれる事を願います。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none">・校長のリーダーシップのもと「有田大好き 進んで学ぶ さわやか有田っ子」を合い言葉に、職員が一丸となって学校目標の実現に向け取り組んできた。次年度も児童の知・徳・体の更なる向上を目指していく。・PTAや地域との連携は、学校評価保護者アンケートにおいてこれからの方針を示す課題をいただいた。来年度は、保護者への周知に力を入れていく。・個別最適な学びと協働的な学びが相乗効果を招くよう、全職員が研究授業研究会に関わり、研究主任を中心に校内研究を通して授業のスキルアップに努める。